

2023年度 メリー★ポピンズ kids 北朝霞ルーム 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

戸外活動を大切にし、日中たっぷり遊び様々なことを経験することができた。自然事象から感じること、友だちと協同して遊ぶ楽しさ、保育者や友だちと手をつなぎ一緒に散歩に出掛けることの楽しさなど、年齢よっての学びは様々だが、法人の保育目標である「センス・オブ・ワンダー」に重きを置き過ぎることができた。

子どもたち一人ひとりが自分の感情や意思を持ち、それを保育者や友だちにきちんと伝えられることができていた。その反面、「やりたいことを自分で決められる」ための環境構成や、保育者の配慮は改善余地があり、来年度以降の重要課題となる。「子どもの最善の利益とは」「子ども主体の保育とは」を来年度以降もとことん追求していきたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	一人ひとりの発達を捉える
	実践結果	改まった会議の場ではなく、日々の職員同士の何気ない会話の中で、子どもの姿の共有を行うことができた。
	次年度方向性	子どもの姿から保育をどのように展開していくか、どのような環境を作るのかにつなげていく。
2	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成、実践、振り返りのPDCAサイクルの定着
	実践結果	日数的に余裕を持って保育計画の作成が出来ず、日々の保育に計画が生きていないことが多かった。とりあえず作成しておく程度の保育計画になっている。
	次年度方向性	作成した保育計画と子どもの姿を照らし合わせて継続的な計画になるようにする。日々の振り返りを保育計画に基づいて職員同士で一緒に行うことで、子どもの姿の共有にもつなげていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	全職員が、保護者の気持ちに寄り添い信頼関係を築き、保護者の心に入り込んだ接遇を心がける。
	実践結果	玄関に入ってきた保護者に対し、すぐに全員で挨拶をして迎え入れることを徹底する。朝夕の明るい挨拶で迎えることで、園全体の雰囲気もとても明るい印象になる。保護者対応もきちんと保護者全員と対話できるよう、特にお迎え時の職員配置などを定期的な見直しを行った。

	次年度方向性	お迎え時の対応を、各家庭に対しきちんとエピソードをつけて話せるようにする。自分のクラスだけでなく、他のクラスの子どもたちのエピソードを伝えられるようにするにはどうしたらいいかを全体で検討しながら、実現できるようにする。
2	計画・ねらい	自園の強み・特性を生かした園の様子や子どもたちの姿の記録と公開を行い、情報を発信する。
	実践結果	タイムラインを用いて、自園の強みでもある異年齢保育での子どもたちの関わりを伝えることができた。
	次年度方向性	場面や出来事だけでなく、子どもの内面の育ちや保育者の思いなども知らせていきたい。
3	計画・ねらい	保護者がいつ来ても整理整頓されている気持ちの良い保育園にしていく。
	実践結果	年度当初に園内の断捨離を行ったことで、保育室全体が見渡せるスッキリと明るい印象になった。整理されている環境が当たり前になったことで、保育者自身も棚の上に物を置きっぱなしにすることがなくなり、出してもすぐに片付けられる環境になった。
	次年度方向性	継続して美観を保ち、気持ちの良い施設となるよう心掛ける。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育、園開放などによって保育園と地域の共育てを行う。
	実践結果	青空保育では地域の別の子育てイベントと日程が重なってしまい、集客にとっても苦戦し、年間の参加者も少なかった。毎日の散歩で、公園にいる子育て家庭に積極的に挨拶や声を掛け、保育園自体が身近な存在として感じられるような働きかけを行った。
	次年度方向性	青空保育での集客をあげていく。まずは活動を知ってもらうための広報活動から始めていきたい。
2	計画・ねらい	「ちきんえっぐ」の定期的な開催により保育園を知ってもらう。
	実践結果	年度後半では数家庭の地域の方が保育園を訪れ、活動を一緒に楽しむことができた。利用してくださった家庭が来年度の入園申込みにつながり、保育者と直接関わることで保育園の様子を知らせる機会になった。
	次年度方向性	集客をあげていく。まずは取り組みをしってもらうための広報活動から始めていきたい。
3	計画・ねらい	保育園が地域の資源としてサービスの提供をする。
	実践結果	地域に開けた保育園にはなれず園児が通うだけの施設という印象が強い。
	次年度方向性	地域に開かれた園となるために、ちきんえっぐや園開放の参加者を増やし、園と保育園・地域の保護者同士のつながりが持てるようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの理解
	実践結果	園内研修を通して、保育者としての子どもたちへの関わり方や子どもの姿の捉え方などを中心に日々の保育を振り返ることを行った。
	次年度方向性	子どもの姿や遊びからのアセスメントができるようにする。遊びを漠然と見るのではなく、子どもの観察を丁寧にじっくりと行い、職員間で共有できる場を設けていく。
2	計画・ねらい	学びのアウトプット
	実践結果	リーダー職員による園内研修を実施し、どのような視点で子どもたちに関わっているのかを共有した。学びを直結させてアウトプットできる場は作ることができなかつたが、保育士としての経験や気付き、法人内の研修をきっかけに園でも振り返り再構築する機会を持つことができた。
	次年度方向性	職員自身が様々なことに対して興味関心を持ち、知りたいと思える環境を作る。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環を知る
	実践結果	野菜の再生利用を行った。さつまいもの切れ端から苗を育て、その苗で新たにさつまいもを作り収穫することができた。食育活動での味噌作りなども食材の変化を知り、興味を持つ姿が見られた。
	次年度方向性	循環の過程を子どもたちと一緒に観察し、気付きを広げて興味を持てる関わりを行う。食の循環を子どもたち自身が知り環境に対して主体的に働きかけることができるようにする。
2	計画・ねらい	食べ残しを減らし、再利用できるしくみを知る
	実践結果	食べ残しを減らすために、年齢に応じて様々な取り組みを行うことができた。給食残渣は減少したが、再利用の取り組みまではできなかった。
	次年度方向性	食べ残しを堆肥として再利用する取り組みを行う。

〈6〉原点回帰

1	計画・ねらい	日課・基本活動の定着
	実践結果	日課・基本活動は定着し、雑巾がけは子どもたちが自ら取り組むことができる。さくらさくらんぼリズムでは自園の良さである、様々な年齢が入り混じりながら音楽に合わせて楽しく体を動かす姿が見られた。

	次年度方向性	取り組んでいる日課や活動は継続して行う。散歩やリズムは内容を充実できるようにする。
2	計画・ねらい	子どもの自己選択と大人が教えるべきことを理解する
	実践結果	子どもの自己選択任せにして、大人がただ見ているだけのことが多い。「主体性とは」を職員全体で考えてきたが、大人が教えるべきことを理解できていない。
	次年度方向性	子どもの主体性について、引き続き考えていく。「保育者としての専門性は何か」を常に問いながら、一人ひとりが意識できるようにする。

〈7〉小1を知る

1	計画・ねらい	小学校1年生を見て知る
	実践結果	幼児クラスの担任を中心に小学校との連携をとり、自園ではどのような取り組みをしていくべきか考えることができた。小学校1年生を知った上で、子どもたちにどのような力が必要か、私たちはどのように関わっていくべきなのかを具体的に考え、計画を立てることができた。
	次年度方向性	小学校1年生を知ることができた上で、5歳児のみならず乳児期からの関わりや育ちを大切にできるようにする。
2	計画・ねらい	子ども間交流の実施
	実践結果	小学校1年生の児童を招き、実際の小学校での様子やどんな勉強をしているのか、学校の楽しいところなどを教えてもらい小学校入学へ期待を持つことができた。
	次年度方向性	小学校との連携がなかなか受け入れてもらえなかったため、来年度は学校と保育園単位での関わりを持てるようにアプローチしていく。また地域のスタートカリキュラムを理解し、それに応じたアプローチカリキュラムの作成、実施を行う。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	60人	60人	72人	72人	72人	372人
年度後半： 10~3月	36人	60人	60人	72人	66人	67人	361人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	203 人	191 人	237 人	187 人	216 人	191 人	198 人	184 人	215 人	201 人	200 人	200 人	2423 人
うち0 歳児	0 人	0 人	2 人	0 人	1 人	0 人	1 人	0 人	11 人	8 人	5 人	5 人	32人

(解説) 18時以降の延長保育利用者とする

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0 人												
うち0 歳児	0 人												

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	9人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	4人	補助	0人	調理	1人	事務	1人
	用務	1人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・行動計画の成果発表、行動計画の決定共有
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動実施内容確認 ・喫食状況確認 ・アレルギー対応の確認 ・献立の振り返り
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・自園ヒヤリハット、インシデント分析 ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定 ・全園事故防止委員会の内容共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長 看護師
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の汚染区域の衛生管理や備品の管理
安全対策係	ヒヤリハット、インシデントの分析、安全な環境の整備
防火管理者	避難訓練の立案、実施、設備の防火管理
食品衛生管理係	食品の品質管理、食育の管理立案

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	園児だけでなく、地域の方にもたくさん参加していただき、実施することができた。保護者の協力も得られたので、来年度はさらに内容を深めていきたい。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に対して不安や戸惑いを抱いている保護者に対し、面談を随時受け入れていることを伝え、積極的に対話ができる機会を設けた。 ・タイムラインを充実させ、園での取り組みや子どもたちの姿などをこまめに配信していくよう努めた。
保育参加	4～3月まで 合計12名 が参加済み (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> ・普段の子どもの様子が知ることができてよかった ・給食の配膳や実際にどのように食事をしているのかがわかってよかった
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> ・園での子どもの様子
運営委員会	運営委員会を6月30日と11月22日にメリー★ポピンズ kids 北朝霞ルームにて実施し、参加した保護者6名(2回合計) 詳細は議事録に記載

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	乳児も幼児も自分で選び、心もお腹も満たされる食事環境を目指す
	実践結果	年齢に応じて自分たちでできることを行った。落ち着いて食事ができる環境を模索し、試行錯誤しながら取り組むことができた。
	次年度方向性	発達に応じた食事環境の設定を行う。今できていることがそのまま継続されるのではなく、子どもたちの様子に応じてその都度見直しを行っていく
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を見につけていく。食を通してすべてのものへの感謝の気持ちを知る。
	実践結果	食材や食の循環について食育活動を通じて伝えることができたが、断片的なものになってしまった。
	次年度方向性	循環の過程を子どもたちと一緒に観察し、気付きを広げて興味を持てる関わりを行う。食の循環を子どもたち自身が知り環境に対して主体的に働きかけることができるようにする
3	計画・ねらい	伝統食、地域の特性(特徴)や加工食品を年間の計画に盛り込む
	実践結果	味噌づくりを実施する。大豆と塩というシンプルな食材から味噌が出来上がることに興味を持ち、出来上がりを楽しみにする姿が見られた。
	次年度方向性	出来上がっていくまでの過程を子どもたちと一緒に観察したり、関心が持てるようにする。そもそも加工食品とはどのようなものか、日持ちして食べ続けられるのはなぜかなど、子どもの問いを引き出し意欲につなげていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月28日/12月6日に実施
歯科検診	6月30日に園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回(全スタッフ対象)
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 5月10月に手洗い指導を実施 ② 12月に性教育を実施

流行した感染症	① 12月に胃腸炎、園児9名・スタッフ1名蔓延 ② 2月にインフルエンザ、園児6名罹患
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、12名が使用可能の状況
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、17名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月28日、12月6日 歯科健診 各年1回／6月30日

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	戸外活動では身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味関心を持つ。
	実践結果	9時には散歩に出かけ、季節の移り変わりや季節ならではの遊びを大いに楽しむことができた。保育者が意図的に用意する環境ではなく、自然と触れ合うことで感じる、経験できることが多かった。
	次年度方向性	継続して行っていく。子どもたちの興味発見を大切にくみ取り、次の活動へと展開していく。
2	計画・ねらい	自分から環境に関わり、自分で考え主体的に行動できる環境を整える。
	実践結果	遊びのゾーンを何度も再構成し、子どもたちが主体的に遊べる環境を考えることができた。保育者の関わりも、子ども自身が気付けるような言葉かけを意識し、人的環境の部分でも意識することができた。
	次年度方向性	子どもの姿に応じてこまめに環境設定を見直したい。大がかりな再構成ではなくても、なにかポイントとなる材料や用具などを用意できるようにする。
3	計画・ねらい	室内環境等においては、安全で衛生的な整理整頓された気持ちの良い環境を整える。
	実践結果	断捨離や清掃を行い、安全で衛生的な整理整頓された園にすることができた。
	次年度方向性	継続して全員でこまめに美観を意識できるような清掃を行っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧
設置なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

※事業計画書に記載した計画の報告を記入すること（このナビゲーションは入力後に削除）

1	防災実践結果	毎月の避難訓練を実施し、様々な状況を想定しての訓練を行った。自主点検等では発電機を使用し、使用方法がわからない職員も実際に使ってみることができた。
---	--------	---

2	事故防止実践結果	事故防止チェック、設備点検チェックを定期的に行うことができた。生存確認も徹底され、職員全員が責任をもって行うことができた。ケガ発生時には適切な対応、報告をすることができた。
3	防犯実践結果	保育中の笛の携帯を徹底し、何かあったときにすぐ周囲に知らせられる行動を身につける。不審者侵入訓練では、玄関のみならず様々な場所から侵入されることを想定し、どのように対応していくべきか全体で考えることができた。
4	光化学スモッグ実践結果	自治体からの注意報発令の際は、戸外活動を控えるようにした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

保育・福祉に関心がある学生に対し、積極的に実習などを受け入れた。実習生自らの気づきを丁寧にくみ取り、保育の楽しさや子供と関わる楽しさを伝えられるようにした。今年度は中学生の職業体験がなかったため、来年度以降は積極的に受け入れていきたい。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
10月17、19日 11月28、30日	日本児童教育専門学校	1人	体験実習
1月29～2月10日 (うち10日間)	大原こども専門学校	1人	保育所実習

〈3〉中高生の受入

該当なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 17名	19日 17名	16日 17名	21日 17名	18日 17名	15日 16名	20日 17名	17日 18名	15日 18名	19日 18名	26日 18名	15日 17名
園内研修	21日 12名	19日 12名	16日 10名	21日 9名	18日 11名	15日 9名	20日 10名	17日 11名	15日 12名	19日 11名	21日 11名	3日 11名

〈2〉外部研修への出席

なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	13日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	13日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

駅前型の園としての強みを生かし、様々な施設に行き交流することを設けられたり、日頃の散歩で挨拶をするところから関係性を深められることができたりと、地域に対して関わりを持つことができた。今年度も新型コロナウイルスの影響で、高齢者施設の訪問は実施できなかったが、来年度も継続して関係性を保っていきたいと思う。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:北割公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先:みらべる、花よし、Olympic、JA あさか、ほそや朝霞市リサイクルプラザ、朝霞市立図書館北朝霞分館、サミット、巣鴨信用金庫、東京靴流通センター、ラビックス、ウェルパーク等
異年齢交流	3月4日に園にて小学生との交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

職員間交流では、幼児クラスの担任を中心に小学校との連携をとり、自園ではどのような取り組みをしていくべきか考えることができた。小学校1年生を知った上で、子どもたちにどのような力が必要か、私たちはどのように関わっていくべきなのかを具体的に考え、計画を立てることができた。

子ども間交流では小学校1年生の児童を招き、実際の小学校での様子やどんな勉強をしているのか、学校の楽しいところなどを教えてもらい小学校入学へ期待を持つことができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月24日	朝霞第七小学校	14名	学校見学（第七小校庭）	見学
11月7日	朝霞第三小学校	1名	授業参観（第三小学校）	職員間交流
1月24日	朝霞市内幼稚園・保育園・小学校	1名	幼保小連絡会(朝霞市民会館)	職員間交流
2月14日	溝沼保育園	1名	幼保小研修会(溝沼保育園)	職員間交流

10. 要支援児

今年度、対象園児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	2名	4名	0名	0名	0名	2名	4名	0名	2名	0名	0名	16名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計1件相談実施済み

自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00 ⇒計1回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00 ⇒計1回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	0名	4名	
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援セン ター主催）	月1回 公園名：北割公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		0名	0名	4名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	2名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月19日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：施設長、主任、調理員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

（省察）園生活のおかげで、様々な場面で子どもの成長を家庭で感じられるというご意見を多くいただきました。お迎え対応を数名の保育者で行ってほしい、お迎え対応の内容を充実してほしいなど、法人の特徴としてあげている3分間対応について改善を求める声も多かった。

いただいたご意見をきちんと受け止め、園でできることをすぐに対応していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ kids 北朝霞ルーム
施設長 坂井 まゆ美